

テークでみる軽トラ市 (その4)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長
地域政策学部教授

戸田敏行

出店車の車体利用 (1)

今回と次回は、出店車の車体利用について触れてみたい。軽トラ市の調査研究を、ゼミ学生達と行ってきたが、卒業論文として取り組む学生もおり、その一例である。

調査対象は新城軽トラ市であり、2019年の5月、6月の出店車90台である。調査方法は、出店車の写真を、前後、左右の4面から撮り、車体利用の分類を行うこと、そして各出店車の責任者へのアンケート調査である。今回は車体利用の分類について、次回はアンケート結果について述べる。

○車体の配置

具体的な分類に入る前に、車体の配置について記しておく。軽トラ市の開催場所は、道路が主であるために、出店車が道路に沿って列状に配置されるのが基本である(境内など広場型の場合は、来街者の通路に対して車体が垂直に配置されるものもある)。全国のすべての例を調べたわけではないが、道路型では道路幅員によって1列の配置と、道路の両側に配

置する2列の場合がある。1列の場合は、商店への通行や緊急車両に対応するため、一般に道路中央近くに配置されており、来街者が通行する販売面と、バックヤード的な背面を形成している。

雫石、川南、新城の三大軽トラ市は、主として1列の配置であり、1台当たりの面積は概ね7m×2m程度である。新城の場合は、図1のような配置となり、車体と車体間の外部空間も販売に利用することになる。

○車体利用の分類と結果

次に車体利用の分類である。今回は、①車種(軽トラ、軽キャブバン、軽乗用車)、②空間利用(車体型、外空型、車体外空型)、③販売方式(陳列、加工)、④車体改造(改

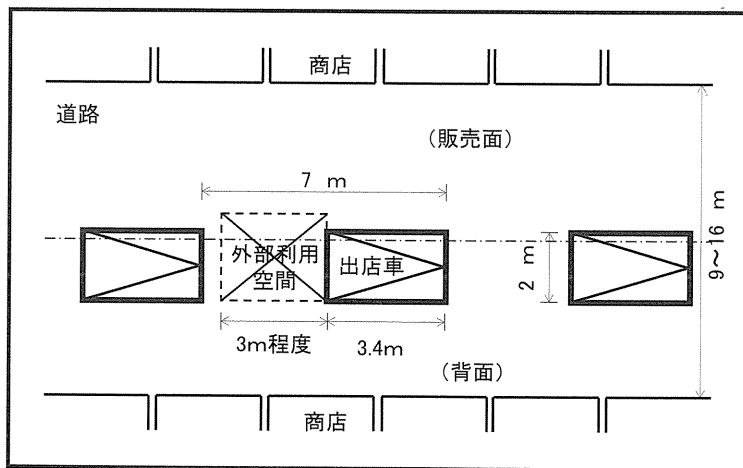


図1 出店車体の配置

造有，改造無），⑤車体の拡張（車体拡張有，車体拡張無），⑥外空装備（テント，パラソル，無），に分類している。以下に結果を示してみる。

①車種：軽トラ市は軽トラックだけではないことは，これまでも述べたが，今回の90台の内訳は，軽トラ37台（41%），軽キャブバン39台（43%），軽乗用車14台（16%）であり，軽乗用車も一定量存在している。なお，軽キャブワゴンは車体の形状から軽キャブバンに分類している。

②空間利用：この調査で最も着目した点である。販売に車体のみ利用しているものを車体型，車体後ろの外部空間のみ利用しているものを外空型，車体と外部空間を利用しているものを車体外空型とした。全体では，車体型9台（10%），外空型61台（68%），車体外空型20台（22%）である。外部空間を販売に使っているものが大半であり，車体と外部空間利用のコンビネーションが重要である。車種と空間利用の関係を

みたものが表1である。車体の形状から軽トラはバリエーションも多いが，車体外空型が主である。軽キャブバンと軽乗用車は外空型となる。図2は，外空型と車体外空型の写真である。

③販売方式：調理等を行わず商品を販売する場合を陳列，調理等を行う場合を加工としている。陳列が72台（80%），加工が18台（20%）である。

④車体改造：目視で判断できる顕著な車体改造が行われている場合を改造有，確認できない場合を改造無とした。改造有が22台（24%），改造無が68台（76%）であった。

⑤車体の拡張：外部空間を利用する際に，車体との連続性を取っているかという点を，車体の拡張と捉えた。具体的には，バックドア等を開いて外部空間と常時繋がるようにす

表1 車種別空間利用

	全体	軽トラ	軽キャブバン	軽乗用車
車体型	9(10.0%)	8(21.6%)	1(2.6%)	0(0.0%)
外空型	61(67.8%)	10(27.0%)	37(94.9%)	14(100.0%)
車体外空型	20(22.2%)	19(51.4%)	1(2.6%)	0(0.0%)
合計	90(100.0%)	37(100.0%)	39(100.0%)	14(100.0%)



図2 空間利用のパターン（左：外空型，右：車体外空型）

データでみる軽トラ市(その4)

るものである。拡張が52台（58%）と過半数となっている。

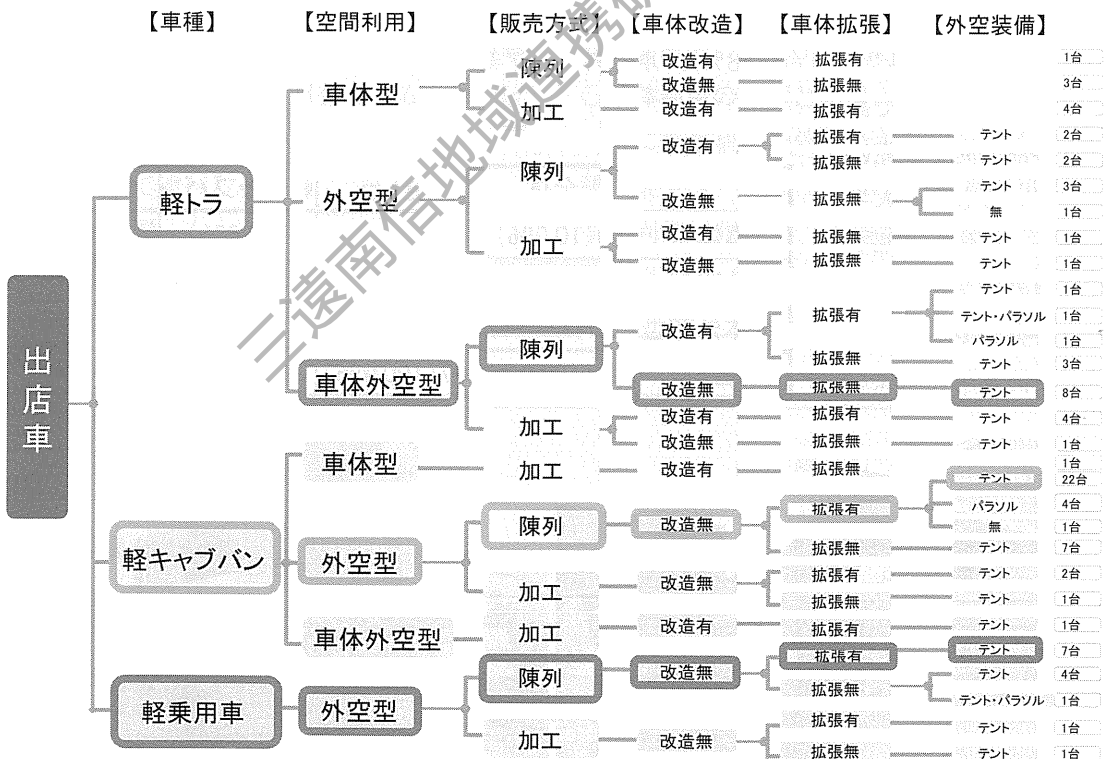
⑥外空装備：最後に外部空間を利用する際の装備として、比較的大きな空間を確保するテント、部分的空間確保となるパラソルに分けている。テントが72台（80%）、パラソル5台（6%）とテント利用が圧倒的であり、外空型、車体外空型の大半がテントを活用している。テント利用も差異があり、外部空間のみを覆うテントや、軽トラの荷台と外部空間を一体的に覆うテントを見かける。これらテントの形状や色彩は、軽トラ市の景観を形成する大きな要素ともなる。

○車体利用の全体像

個別の分類とその結果を概観したが、これ

らをまとめると、軽トラ市の全体像を俯瞰することになる。図3が、分類を纏めた樹形図である。車種別に、台数が多い組み合わせを太い線で囲んでいる。まず、軽トラでは、車体外空型・陳列・改造無・拡張無・テント利用（8台、22%）である。次に軽キャブバンでは、外空型・陳列・改造無・拡張有（バックドア等）・テント利用（22台、56%）となっている。最後に、軽乗用車は、外空型・陳列・改造無・拡張有（バックドア等）・テント利用（7台、50%）で、軽キャブバンと同様の傾向にある。

次号では、これらの車体利用について所有者の意識等に触れてみたい。



軽キャブワゴンは車体の形状から軽キャブバンに分類

図3 車体利用の全体像